

# 北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2016.08.No228

8月号

## 目次

「まちづくりフォーラム in 苫小牧」……	1
技術ノート……	2
青年・女性の窓……	5
〔No.77 HOKKAIDO 建築士会 女性委員会〕	
ブロック会報告……	6
〔道東・道南〕	
Coffee Break……	7
information……	8

URL <http://www.h-ab.com/>



## 「まちづくりフォーラム in 苫小牧」

まちづくり委員会 山田直登 (空知支部)

6回目を迎える今年のまちづくりフォーラムは「苫小牧駅前通商店街のコレマデとコレカラ」をテーマに開催された。



まず初めに駅前の交流拠点「ココトマ」にて、苫小牧市美術博物館の武田学芸員より、苫小牧駅誕生の歴史や数度にわたる駅舎の改修の背景や駅前の移り変わりの中で現在は取り壊されてしまっている重要な建物の説明を受けた。小雨降る中、まちあるきがスタートし、総勢40名で駅前からまちなか交流館までの約500mの街並みを、再び武田学芸員の説明を受けながら散策した。

昼食をはさみ午後からは、苫小牧信用金庫の2階市民ホールにて、前回まちづくりフォーラムの報告、そして苫小牧駅前活性化への取組みの発表が行われた。苫小牧市まちづくり推進室の武田主幹をはじめ、商店街の秋山理事長や苫小牧工業高校の北側教諭など、5名の方々から活性化への取組みと熱い想いが語られた。

その内容は、点での活動を面での活動に広めていく難しさ、道内でいち早くスタートしたまちゼミ開催、人材不足・新規参入者不足・離れる市民の気持ちなどをどのように解決していくのか、「活性の火」という一大音楽イベントに成長しつつある催し、そして苫小牧工業高校生が街頭に出て集めた市民の声と、まちを元気にしたいという学生の思う駅舎や商店街の計画というものであった。続いて、発表者の



中から3名がパネラーとなりパネルディスカッションが行われた。そもそも商店街が活性化されたと実感するにはどうなればそう思えるのか、他の近隣の商店街と一緒に発展していくためにはどうしたらよいのか、そして最後に一人一点ずつ参加者へ問題提起がなされた。①まちなかに人を集めるためには②地域でお金がまわる仕組みにするには③まちづくりの人材育成を行う方法は、この3点をお題とし、引続き6テーブルでワークショップが行われた。どのテーブルも非常に活発に話し合いが進められ、特に参加していた高校生の真剣な顔が印象に残った。ワークショップ終盤の高校生の発表はとて立派で苫小牧のコレカラが楽しみに思えた。



このフォーラムが契機となり苫小牧のまちづくりが更に活性化されることを祈念して会を閉会した。

# 熊本地震における建物被害状況と 応急危険度判定について

地方独立行政法人北海道立総合研究機構建築研究本部  
北方建築総合研究所地域研究部居住・防災グループ

主査 竹内 慎一

## 1. はじめに

4月14日21時26分、熊本県熊本地方を震央とする、震源の深さが11km、マグニチュード6.5の地震（前震）が発生し、熊本県益城町で震度7が観測された。また、28時間後の4月16日1時25分には、同じく熊本県熊本地方を震央とする、震源の深さが12km、マグニチュード7.3の地震（本震）が発生し、熊本県西原村と益城町で震度7が観測された。

本震と余震ともに最大震度7が観測され、2度の大きな揺れに見舞われたことにより、熊本県を中心に建物・人的被害が拡大し、住宅倒壊、道路・ライフライン途絶などにより多数の避難となった。余震の数が多かった2004年新潟県中越地震に比べても地震数は非常に多く、発災当初は建物内に避難できず車内で過ごす避難者も多数発生した。

今回の震災の状況を踏まえ、今後の北海道における防災対策に活かすため、当研究所では、震災発生後に被害調査を実施した。

また4月20日に宮城県（北海道・東北ブロック幹事県）を通じて、熊本県から北海道に応急危険度判定士派遣の要請があり、道の派遣隊の一員として、建築研究本部北方建築総合研究所からも判定士を派遣した。

以下に、熊本地震における被害調査結果と応急危険度判定について報告する。

## 2. 熊本地震における被害調査結果

### 2.1 調査概要

地震発生早期の被害状況の把握と報道では伝わらない現地状況の把握を主眼として、4月28日～30日に現地調査を実施した。

調査地は、熊本県熊本市や宇城市、震度7を記録した益城町・西原村、役場庁舎が使用不可となった宇土市・八代市とした。

### 2.2 構造種別ごとの被害概要

#### 2.2.1 木造住宅

震度7を記録した今回の内陸地震では、崩壊する木造住宅が多く、震源周辺の益城町では旧耐震の住宅を中心に被害がみられた。

1階部分が崩壊した木造住宅被害の例を写真1に示す。1階と2階とで耐力壁線が一致しない、ある

いは内壁の少ない間取りであったため、2階の地震力が1階外壁に伝達できず崩壊したと推測される。また、倒壊した住宅は接合部金物やアンカーボルトなどの使用がみられなかった（写真2）。



写真1 木造住宅1階部分の崩壊



写真2 接合部金物の不使用

#### 2.2.2 非木造建物

鉄筋コンクリート造建物では、非耐力壁の損傷やピロティ柱のせん断破壊による層崩壊など、概ね過去の地震と同様の被害がみられた。

特に災害時に防災拠点となる鉄筋コンクリート造の役場庁舎が、2度の大きな揺れによって使用不可となった。益城町役場庁舎の被害状況を写真3に示す。庁舎は1980年代に建設された鉄筋コンクリート造3階建・耐震補強済みの建物であり、前震・本震ともに倒壊しなかった。エレベーター棟やアプローチの庇、渡り廊下とのエキスパンションジョイント部分などの損傷によって、安全が確認できるまで本庁舎の使用が不能となり、役場機能を保健福祉センターへ移転させている。



a) 益城村役場庁舎



b) 渡り廊下の損傷



c) E V棟の損傷

写真3 益城村役場庁舎の被害状況

宇土市役所庁舎の被害状況を写真4に示す。庁舎は1960年代に建設された鉄筋コンクリート造5階建の建物であり、前震では震度5強で倒壊しなかったが、本震の震度6弱で層崩壊となり、役場機能を市民体育館へ移転させた。被害は、不整形な建物形状や壁の偏在に起因した柱、柱梁接合部、耐力壁のせん断破壊による層崩壊と推測される。



a) 宇土市役所庁舎



b) 柱梁接合部の破壊

写真4 宇土市役所庁舎の層崩壊

## 2.3 避難所

避難者数は4月17日時点で最大となり、熊本県全体で18万人となった。益城町は最大1万6千人が避難しており、町民の約半数が避難した。益城町で最大の避難所となった総合体育館では収容を想定していたアリーナが使用不可となった。避難者はホールや廊下など非常に狭いスペースでの避難となった(写真5)。今回の避難の特徴は、余震数が多いため、車中やテントなど屋外避難が多いことである。今回調査は、発災から1週間経過後の時期で、避難所運営の体制が整理され、薬相談・ペット食配給・段ボールベッドなど様々な支援が入る時期であった。



写真5 廊下やロビーの高密度な避難スペース

## 3. 応急危険度判定

### 3.1 判定概要

北海道からは合計70名と過去最大の派遣数となり、民間から初めて判定士(建築士会2名)が派遣された。当研究所からは、第一次派遣が4名、第二次派遣が3名と、合計7名の判定士を派遣した。

派遣期間は、第一次派遣が4月22日~26日(判定期間は23日~25日)、第二次派遣が4月25日~29日(判定期間は26日~28日)の5日間(判定期間は3日間)となった。

北海道派遣隊は、熊本市新屋敷地区ほか市街地および益城町広崎地区を対象として、1,654件(調査済857件、要注意548件、危険249件)を判定した。

### 3.2 判定コーディネーター

熊本市役所別館が判定拠点となり、判定活動の指示や、判定資機材・ペットボトル・非常食の配布が行われた。判定コーディネーターは、主に独立行政法人都市再生機構(以下、「UR」という。)の職員が技術支援として行っていた。

コーディネーターから、判定地区の地図と判定調査票・ステッカーが渡され、宅地に不具合があれば調査票に記載するよう説明があった。判定対象地区の建物や被災概況、避難住民の情報はガイダンスでは把握できず、特に第1次派遣は、基本的に情報がない中での判定活動となった。



写真6 判定拠点でのガイダンス



写真8 外装材の脱落による危険判定

### 3.3 判定活動

応急危険度判定は、主に「隣接建築物・周辺地盤等および構造躯体」と「落下危険物・転倒危険物」の2つの観点から行われる。

人命に関わる二次災害の防止を目的としているため、構造上倒壊の恐れがなくとも、余震で外装材落下の恐れがある場合、周辺住民への周知として危険判定となることがある。落下物は、危険物の撤去など処置をした場合に判定結果が変わることもあり、判定根拠とともにステッカーに記載する必要がある。益城町では、根拠が落下物か躯体かをチェックできるステッカーが利用されていた（写真7）。



写真7 落下物が躯体かをチェックできるステッカーの例（益城町）

落下危険物による判定例について写真8に示す。判定地区内で、すでに判定済みの建物のステッカーをみると、例えば外装材の剥落の程度が写真8のように広範囲である場合、範囲の広さから危険と判定をする判定士と、人の立ち入る場所に面している場合を危険、そうでなければ注意と判定するなど、判定士によって認識が違っていた。

例えば出発前に全員で同じ建物を対象に判定のデモンストレーションを行うなど、判定の個人差を少なくする工夫は必要と考える。

道派遣隊は、居住者への声掛けや報告を全戸で行うことで、居住者の安心感に繋がった。また熊本地

震では市の広報や報道などで居住者が判定実施を知っており、判定士の周知を知って、結果の報告を期待している場合も多かった。

居住者にとって被災した建物を専門家に診てもらった初めての機会であり、居住者にどのような情報を提供するか、判定士間で共有が必要である。

## 4. まとめ

### 4.1 熊本地震における建物継続使用の課題

構造種別ごとの被害概要は、概ね過去の地震被害例と変わりはない。木造住宅は、2階建ての1階部分の崩壊が多く見られた。耐力壁位置が異なる場合の1階壁への地震力伝達など検証が必要である。

非木造建物は、構造バランスの悪い旧耐震建物が被害を受けている。特に役場庁舎など拠点機能が移転を余儀なくされている。また構造面だけではなく、附属建物や非構造部材の被害により、建物継続使用に支障をきたす例もあった。災害時に拠点となる施設については、附属建物を含めて設計のあり方を検討する必要がある。

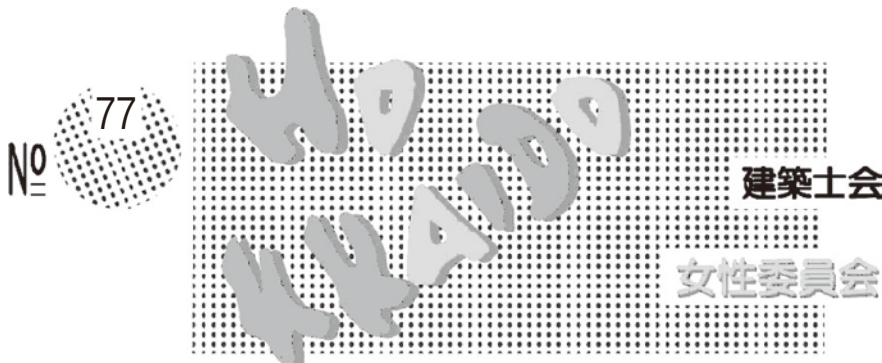
### 4.2 応急危険度判定制度の課題

応急危険度判定活動の課題として、落下物の判定基準の統一や、構造躯体か落下物かどちらに起因する判定かの表記、居住者への情報提供など運用上の改善点があげられる。

熊本地震では、URが判定コーディネーターとして支援しており、北海道で被災を想定した場合でも、役割分担を事前に考えた体制の検討が必要である。

今後は、熊本地震のように大きな地震が連続で複数回発生する可能性がある場合の判定方法や、罹災証明の判定結果への活用、積雪期の判定技術など、応急危険度判定の目的の再定義も含めた検討が必要と考える。

最後になりましたが、今回の地震により被災された方々に、心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地域の一刻も早い復興をお祈り申し上げます。



道央Aブロック

さっぽろの  
インテリアショップ巡り

沼田 暢子 (小樽支部)

5月28日(土)、札幌支部理事であり、雑貨とインテリアのお店のガイドブックを2冊執筆している新海直美さん(nest代表)のご案内で、さっぽろのインテリアショップ巡りを行いました。当日はお天気も良く絶好の散策日和となり、新海さんを先頭に参加者9名は、元気に地下鉄18丁目4番出口を出発しました。

候補に挙がった18店舗の内、立ち寄ったお店は9か所。おしゃれな生活雑貨とグリーンのお店、自然素材を使った手作り石鹸のお店、主役である料理を引き立てながら自らも美しさを主張するグラスと器のお店、すれ違うのが困難なほど本と雑貨で溢れた昭和の匂いのするお店など、どこもみな個性的で楽しく、あっという間の3時間でした。



中でも興味を持ったのは、ロングライフデザインをテーマにしたお店で、店内には、国内と海外の商品の他に、その店舗がある地域のロングライフデザイン商品が並んでいました。昔からある普遍的なデザインは、無駄がなく、機能的で美しく、医療用具や実験器具なども生活雑貨として十二分に使え

るものであることに改めて気づきました。お店のショッピングバッグが、みんなが持ち寄ったものにお店のラベルを貼っただけのリサイクルだということにも感心しました。

もう一つは、1棟の古いマンションを住戸単位で利用した様々なショップの集まり。お店に行くには、マンション入口にある部屋番号を押してドアを開けてもらうというシステムも面白く、一棟丸ごとを一つの企業で使うのが難しい場合でも、各住戸、各部屋を個別で使用するのは、古い建物のとてもよい活用方法だと感じました。

街で見かけるインテリアショップに並ぶ雑貨や食器は、どれも素敵で毎日の暮らしをちょっぴり豊かなものにしてくれます。が、心にゆとりがないと、インテリアや雑貨には目が向かないのも事実。

建築やデザインに関わっている者として、常にゆとりと遊び心を忘れず、こだわりを持った人が作る作品や、こだわりを持った人が選ぶ商品を敏感にキャッチできる感性を持ち続けたいものです。

今回お休みで見られなかったお店は、また次の機会に。その時には、古本屋で見かけて気になった「火星人からの手紙」を買って来ようと思います。



女性建築士の集い  
in 室蘭 part 2  
鈴木 彩恵 (札幌支部)

昨年に引き続き、室蘭の歴史的建造物をめぐる集いを開催します。

JR室蘭駅から徒歩で古いまち並みが残る旧アーケードを通りながら、ゆるやかな坂を登ると見学先の一つである『恵山苑』の立派な門構えが見えてきます。室蘭を代表する企業の栗林商会所有の邸宅で、明治42年に港や鉄鋼関連会社設立に関わった政財界の要人達をもてなすために、創始者である栗林五朔が建築したものです。



もう一つは、『旧絵鞆小学校』です。希少なメガネ型の円形校舎でしたが、惜しまれつつも閉校となり、現在は市の教育機関として活用されています。



女性建築士の集い in 室蘭 2016

日時

10月2日(日) 10時~13時半位

集合場所

JR室蘭駅  
(室蘭市中央町4丁目5-1)

ルート

室蘭駅 10時集合~(徒歩)~恵山苑(内部見学 40分程度)~室蘭駅(自家用車へ分乗)~旧絵鞆小学校(内部見学 30分)~昼食・解散

申込方法

①参加者氏名 ②所属支部 ③連絡先(電話・メール) ④昼食 要・不要を添えて下記に申してください。  
(締切り：9月10日)

建築士会事務局

TEL：011-251-6076

FAX：011-222-0924

Mail：urakami@h-ab.com

(浦上まで)

## 道東ブロック会議報告

### 道東ブロック

統括理事 庵 敏幸 (北見支部)



6月4日に、道東各支部の支部長及び、事務局長が参集し、道東ブロック会議が札幌で開催されました。ブロック会議の議題につきましては、①会員増強の対策、②平成28年熊本地震に伴う民間判定士の派遣による、建築士会会員の「被災地応急支援ネットワーク」いわゆる、応急危険度判定士連絡網への登録強化、③平成32年に開催予定の建築士会全道大会(道東ブロック)の開催候補地の検討、④熊本地震に伴う各支部からの義援金への協力依頼、⑤今年度改選予定の代議員選挙の日程等について等、多様な議題について意見を交し合い有意義な会議でございました。

その中でも、やはり新規会員の増強は急務であり、道東の各支部様におかれましても若者の勧誘に多種多様な取組を行ってはいらぬもの、苦戦しているのが現状であります。

我々、建築士会員は仕事柄、各種、多くの関連事業者と関わり合いを持っております。そんな関連事業者様にも建築士の方が、多く在籍しておりますことから、まだ、建築士会に入会していない方がおられる場合は、お声掛けしていただけるようご協力して頂きたいと思っております。

また今年、九州の熊本地方で大きな地震被害が発生しておりますが、北海道からも民間判定士が、判定活動要請に基づいて熊本市での判定活動に従事しております。道東ブロックにおきましては、太平洋側とオホーツク海側の2つの海域に面しており、特に太平洋側は地震も多く発生している半面、オホーツク海側は地震が少ないという経緯もございます。

今回の熊本地震におきましても、普段から地震等が少なく、耐震への関心が低い地域で起こった災害という事もあり、被害は皆様ご存知のとおり、大変甚大なものとなっております。道東で大きな地震が発生した場合、周辺の建築士会員の協力は必要不可欠であり、有事に備え、「被災地応急支援ネットワーク」へご登録頂けますよう各支部様に、協力依頼をお願い致しました。併せて、地震等の災害の際には、行政と各支部の建築士会が協力し合えるよう、友好的な体制作りについてお願いしたところでございます。

今回のブロック会議におきましては、道東各支部様への協力依頼や、お願い事が多くなってしまいましたが、現況をお伝えし、終わらせて頂きます。

## 支部活動の充実の意味は

### 道南ブロック

統括理事 山内 一男 (函館支部)



各支部の取り組みの話を通して、建築士会の課題や会員増強の糸口等を探る会議であった。

■ 桜山支部は会員数50名。委員会活動は難しい状況で会員独自の取り組みをフォローしている。地域貢献の江差景観ワークショップにおいて、景観スポットに小学生に絵を描いて貰った案内板やベンチを設置。北前船の事業や産業祭りに積極的に参加し、地域活動を通じて、建築士会の役割を広報している。

■ 日高支部の会員数は現在100名ほど。高齢化と若い会員が少ない中、板金会社の方が1級、建材関係の方が2級の資格を取った。受験資格のある人に有資格者になるよう勧めている。会員が集まるのに大変な地域、ソフトボールからパークゴルフの催しに変わるが交流を続けている。自己研鑽と資格を取るように勧めている。

■ 苫小牧支部は第3回苫小牧工業高校の卒業設計コンクールを実施。年々充実し就職に繋がる機会に。白老町に建つ「民族共生の象徴となる空間」で、苫小牧支部がまちづくり提案を行った。ホームページに内容が掲載されている。被災建築物応急危険度判定の地上訓練に苫小牧市職員も参加した。地域貢献度や地域の共有と係わりには、この取り組みは大事である。まちづくりフォーラムの開催など、参加の機会を多くし、目立つ事も必要だと思う。

■ 室蘭支部の会員数は横ばい、高齢化と新しい会員が少ない。全道大会に全力で取り組み、室蘭市長にも建築士会をアピールし、委託事業や講習会の開催の機会にしたいと考えている。現在は新しい事業の実施が出来ていない。

■ 函館支部は、各委員会によって支部活動を行っている。会員数は横ばいで推移。会員増強の支部活動ではなく、会員のための事業と活動をする。情報委員会は会員向けの支部だよりを一新し、広報誌として会員外にも読んで貰える雑誌に変更。青年委員会のマイ箸作り、合格者を祝う会の取り組み。総務委員会の施行監理技術者更新講習。事業委員会のインスペクション講習会、まちづくり委員会の建築見学会、市民とのチャリティピヤパーティー。青函検交流は年一度の交流の機会として大事に継続したい。昨年休眠中の女性委員会は、本部女性委員会の函館での活動をサポートした。全国大会を控え、会議開催を切欠に活動を目差したいと考えている。

3年に一度の公共建築工事標準仕様書の講習会の函館開催に漕ぎ着けた。広く案内することで建築士会会員の優位さも分かって貰えればと取組んでいる。

**日高支部 支部の事業活動について**



事務局長  
**田村 勝弘**

平成28年度の支部総会が2月13日(土)に浦河町のウエリントンホテルで開催され、事業報告及び事業計画が承認され無事終了しました。総会終了後の懇親会では恒例となっておりますビンゴゲームや、ジャンケン大会で大いに盛り上がり楽しい総会になりました。

支部の事業活動では、建築士普及啓発事業として例年行っております、ちびっこ建築士の絵画コンクールと会員同士の親睦を深める目的で行っておりますソフトボール大会が主な事業活動です。絵画コンクールは日高管内の小学4年生を対象に「ぼくのいえ・わたしのいえ」をテーマに行っているも

のです。子供達に住宅を描いてもらい建築に興味をもっていただき、将来の「建築士」にと期待しているところです。また、ソフトボール大会は開催地を毎年変えて行っていますが、最近が高齢化と参加人数の減少により、ここ2年間はパークゴルフ大会に変更して行っているところです。それでもこのパークゴルフ大会が事業活動の中で一番参加人数が多く、去年は若い人達も沢山参加していただき楽しい大会となりました。これからも会員同士の親睦をより一層深める事業になるように！



**十勝支部 歴史的建築物の調査・研究**



まちづくり委員  
**山田 大樹**

「めむろ建築まちづくり研究会」は解散した建築士会芽室分会が母体となって、建築士やまちづくりに関心のある会員で組織された団体です。その活動は幅広く、工事現場の見学や町内イベントへの参加協力、東日本大震災の被災地視察等を行っています。そして近年力を入れている活動が、「歴史的建築物の研究」です。会には「ヘリテージマネージャー」の資格を持つ会員が7名おり、歴史的建築物の調査や研究の時には大きな力となっています。平成26年には、国土交通省の委託を受け、芽室町内の歴史的建築物の調査を行いました。(詳細は国土交通省ホームページ「歴史的風致維持向上推進等調査」をご覧

ください。)この調査は良好な景観や歴史的街並みの形成における様々な課題に対応した取組の提案を募集し、優れた提案を実施することによりその成果を全国的に広めて、地域における良好な景観や歴史的風致の推進を図ることを目的としています。調査により、芽室にある歴史的建築物(入植者の住宅)の件数や特徴、断熱及び耐震改修の方法を提案することができました。「めむろ建築まちづくり研究会」の更なる活躍にご期待ください。



**笠原爺ィの釣り日誌 ～DNAと背後霊「魚釣り八十八か所」の巻～**

**6**

**出発**

ご先祖様から載いた「釣好きDNA」が芽を出し、秋も深まった10月初旬、札幌を出発した。

**狸の皮算用**

爺ィの仇名は「狸」。顔も狸に似ていてヤル事もそっくりなのです。

当然、取らぬ狸の皮算用。釣具店で大魚を掬うデッカイ「たも」と、釣れたら入れる発砲スチロールの特大箱を5個も買った。バツカだねえ～、釣れもしないのに箱バツカリ買って～、欲たかりッ。

**魚の餌?**

狸はその釣具店で、も一つ、変な物を見つけた。魚を騙す「餌」。ナント「塩ニンニク鯉」に「エビ粉まぶし鯉」だと。今時メタボの人間じゃあるまいし、魚だよ。魚が、山のニンニクやエビ粉まぶし、だなんて喰いつくわけ無いよ！。

第一、ニンニクなんて、元気のなくなった人間の高齢者が食べる物、老いぼれた、変な魚、釣れたらドーする?。

つづく



## CPD認定プログラム(7月認定)

### ◆ヘリテージ・マネージャー・

#### コーディネーターフォローアップ講座in網走

《日程及び会場》 8月6日(土) 14:30~17:30  
8月7日(日) 10:00~12:00  
オホーツク・文化交流センター他(網走市)  
《単位数》 6日・3単位 7日・2単位  
《問合せ先》 北海道文化遺産活用活性化実行委員会  
Mail info@hnm.jp.com

### ◆平成28年度BIS更新講習会

《日程及び会場》 11月8日(火) 13:30~16:30  
道北地域旭川地場産業振興センター(旭川市)  
他3会場  
《単位数》 各3単位  
《問合せ先》 (一社)北海道建築技術協会  
Tel. 011-251-2794

## 道士会の動き

### 道本部の主な会議報告 (7月)

#### ◆CPD・専攻建築士審査評議会

《開催日》 7月5日(火)  
《議題》 1) 継続能力開発 (CPD) プログラム認定状況について  
2) その他

#### ◆第2回事業委員会

《開催日》 7月7日(木)  
《議題》 1) 第58回「建築技術講習会」の開催について  
2) 教育に関する事業の「新たな事業」について  
3) 東西アスファルト事業協同組合との協賛事業等について  
4) インспекター養成講座(第2回)の開催について  
5) 住教育等事業への協力について  
6) その他

#### ◆第2回被災地応急支援委員会

《開催日》 7月16日(土)  
《議題》 1) 平成28年事業計画について  
2) HUGの開催(女性委員会と共催)  
3) 各自治体と支部の協定締結推進について  
4) 訓練について(全道判定訓練とコーディネーター講習)  
5) その他

### 道本部の主な行事予定 (8月)

開催日 8月20日(土) 第2回青年委員会  
開催日 8月27日(土) 第2回まちづくり委員会WEB会議  
開催日 8月27日(土) 第2回女性委員会  
開催日 8月19日(金) 監理技術者講習会

## 編集後記

まちづくり委員会が取り組んでいる「まちづくりフォーラム」、今年は苫小牧にて6回目の開催です。

まちあるきの後、いろいろな方々とパネルディスカッションを行い、そこに高校生も一緒に活動したというのは、とても明るい希望を感じます。

熊本地震発生から3ヶ月。未だ避難生活している方がたくさんいます。精神的疲労は計り知れません。一刻も早い復興を願います。

情報委員 柳山美保子(札幌支部)

## CPD 自習型認定研修の設問

P2-P4 技術ノート

(熊本地震における建物被害状況と  
応急危険度判定について)

北海道建築士 No.228

2016/8/1 単位: 1



設問 「応急危険度判定」に関する記述のうち、最も不適切なものはどれか。

- 応急危険度判定は、被災した建築物が一見して危険ではない場合、①隣接建築物・周辺地盤等及び構造躯体に関する危険度と、②落下危険物・転倒危険物に関する危険度について判定を行ない、①と②の大きい方の危険度で判定する。
- 鉄筋コンクリート造建築物の損傷度Vとは、柱あるいは壁の鉄筋が曲がり、内部のコンクリートも崩れ落ち、一見して高さ方向の変形が生じていることがわかる程度の場合である。
- 応急危険度判定は、地震によって被災した建築物について、建築物の内部に立ち入り、当該建築物の沈下、傾斜および構造躯体などの損傷状況を調査することにより、被災の程度を区分し、復旧の要否を判定して震災復旧につなげることをいう。

※不正解の場合は、単位に登録できない場合があります。



## 会誌「北海道建築士」 CPD単位登録のご案内

CPD自習型認定研修の設問は、下記の手順でCPD単位登録を行ってください。

- CPD情報システムにログインをします。
- 士会用メニューより「認定教材研修申請」を押します。
- CPD番号、氏名を確認し、必要欄を入力します。
- プルダウンメニューから「北海道建築士」を選択します。
- 設問への解答を選択します。
- 入力後、「次へ」を押します。
- 確認画面より「申請する」を押し、完了です。

注) 不正解の場合は登録できません。

情報委員会委員長/早川 陽子  
副委員長/齋藤 勝哉・高松 徹・森 勝利  
委員/熊谷 智・柳山美保子・鈴木 雅人  
柏倉 晶憲

### 北海道建築士 No.228号

印刷 平成28年7月/発行 平成28年8月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会  
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地  
大五ビル  
電話 (011) 251-6076番  
URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎  
〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目  
電話 (011) 811-7151番